

西鶴賀便り

(発) (行)
長野市中心市街地
活性化協議会
長野県建築士会
ながの支部
(協) (力)
西鶴賀町

竹山稲荷神社で
1月7日に行
われたどんど
焼きの写真。



五穀豊穡
無病息災
どんど焼

展示スペース

その後の...
1月18日(木)に有志に
よる(4度目の正直の)
写真パネルの貼付け
が行われ、遂に展示
スペースが完成しました。
壁に並んだ西鶴賀の
歴代の地図やお祭りの
写真、街並みのコマ
などは、ぱり壮観。
一回であらためてし
ば見入ってしまいました。

おつかれさん会と新年会
を兼ねてつるよで一杯...



訪問 西鶴賀でつくるひと

工房 八郎衛門

陶芸は「どういつ
仕上がりにしたいか」
から逆算するの。
土も伸ばし方も焼キ
方もいろいろ。「こっ
しなま、いけない」は
ないのよね。



市川一子さん(79)



東 耀堂

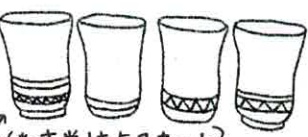


西澤丈男さん(74)

掛け軸の布の組み
合わせは着物と一緒に。
予算内で作品が一番
引き立つ組み合わせを
考えるのがおもしろ
いね。



お寺さんからの
依頼で作った試
作品



(※本当はちこせつ)
秋祭りの記念品や
町民の灯籠も

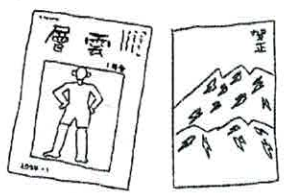


いけれど冷や汗よね(笑)

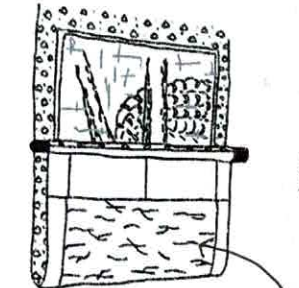
小さい頃から針仕事とか細々
作るのがとにかく好きでね。
陶芸は昭和63年に習い始め
て「色がうまく出ない」とか
「ヒビが入った」とか、気に入ら
ないものがすぐでなくなるとそ
れがまたおもしろくて。先生
が企画してくれた「窯窯」
あながま(※4日間不眠不休で
薪を燃やし続ける)を体験
して、すっかりハマ、ちゃった(笑)

それは十数年間自分で
窯を借りて仲間と顔を真
っ黒にして焼いて。楽しく、
たね。成人学校の講師のお
手伝いが入って来るようにな
って、のちに講師デビューして
今はこの工房以外にも子
ども会や老人福祉センター
に積極的に出向いているの。

陶芸の楽しさを伝えることを大
切にしています。工房には15
人位生徒さんがいて、仕事帰りに
さ、と来られるようにエプロンとサ
ングルも用意しているの。去年は
外国の人が習いに来て「今度は6
ヶ月で来ます」と今年連絡があ
って、人に教えるって自分も学び
直さないといけないから、つれし



お上人さんの書。
善光寺大本原の
出入り職も30年以上
委嘱されている。



【折当(おれあて)】
細かく切った和紙を
裏側から貼り、作品の
折れを補強している。



仕事道具は刷毛
から定規、のこぎり、針、糸
まで挙げたらきりなし。
数珠は掛け軸の仕上
げに紙をやわらかくする
(=巻きやすい)ため
に使う。

「表具師」は紙のことならな
んでもやる仕事でね。掛け
軸や額に日本画や書を表
装したり、ふすまや障子を扱
ったり、作品を修復したりす
ることもある。祖父が明治43
年に豊野で創業して私で三
代目。親父の代で長野に出
てきてここに店を構えて昨
年で50年。若連と一緒にだ
るよ。

仕事はケースバイケースだから
とにかく経験。いろいろやらせ
てもらって今がある。作品は
一点ものだし、誰がやたらか
からないものを保存状態を
見ながら修復仕立て直すこ
ともある。今度度は自分が何十
年先を見越してね。絵を洗
ったソシミを抜くこともあ
るよ。

掛け軸は三枚の薄い和紙で裏
打ちされていて、それぞれが粘着力
を変えたので貼り合わせられてい
る。だから修行はまず、何年も水
に浸して粘着力を弱めた「古のり」
を溶くことから始まるんだ。

